

第3回 中川・綾瀬川流域水害対策協議会 【議事概要】

1. 日時

令和7年2月18日(火) 15時30分～16時45分

2. 場所

さいたま新都心合同庁舎2号館5階大研修室5A (WEB併用)

3. 出席者

別紙のとおり

4. 議事概要

- 「中川・綾瀬川流域水害対策計画(案)」について、内容の確認を行い、承認された。
- 計画策定までの流れについて、確認を行い、手続きを進めることについて承認された。

5. 主な意見

(1) 挨拶 (関東地方整備局 岩崎局長)

(2) 議題

- 1) 中川・綾瀬川流域水害対策計画(素案)の縦覧・意見募集、学識経験者への意見聴取
・事務局(江戸川河川)より、「資料1」を説明
- 2) 中川・綾瀬川流域水害対策計画(素案)に対する主な意見と対応方針について
・事務局(江戸川河川)より、「資料2」を説明
- 3) 中川・綾瀬川流域水害対策計画(案)について
・事務局(江戸川河川)より、「資料3-1」「資料3-2」を説明
- 4) 計画策定までの流れについて
・事務局(江戸川河川)より、「資料4」を説明

5) 意見交換

<春日部市長>

- 第1回協議会にて要望した「防災・減災・国土強靱化のための5か年加速化対策の事業期間の延長」に関し、災害が激甚化・頻発化する中、地方自治体が引き続き流域治水に取り組めるように、「緊急浚渫推進事業債」の期間を令和11年まで5年間延長いただけただけなことにお礼申し上げる。
- 協議会の中で承認された「中川・綾瀬川流域水害対策計画(案)」について、今後、法定協議などを経て計画が策定されるということで、本日は大変重要な節目である。
- 特定都市河川に指定された流域全体で水害を軽減させる治水対策の一層の推進が図れるよう、本市としても、しっかりと協力してまいりたいと考えている。

<茨城県(代理)>

- 近年、全国各地で豪雨が激甚化・頻発化しており、本県においても平成27年関東・東北豪雨、

令和元年東日本台風、令和5年台風第13号等により、甚大な被害が発生しており、流域治水の取組が極めて重要であると認識している。

- 現在、既に策定された一級河川の流域治水プロジェクトに加え、本県における二級河川の流域治水プロジェクトを策定し、関係者と協働しながらハード・ソフトが一体となった対策に取り組んでいる。
- 「中川・綾瀬川流域水害対策計画」は、これまでの流域が一体となって進めてきた取組が、特定都市浸水被害対策河川法の枠組みにより体系化され、被害の最小化に向けた実効性の高い取組により、流域全体で効果的な治水対策が期待されるものである。
- 今後も、国、東京都、埼玉県、関係流域自治体をはじめ、流域のあらゆる関係者と協働して、流域治水の推進に努める。引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

<埼玉県（代理）>

- 八潮市内で発生した道路陥没事故について、連日にわたり、様々な関係機関のお力添えをいただきながら、下水道管渠にあるキャビンの救出に向けて全庁を挙げて対応しているところ。
- 関東地方整備局においては、リエゾンの派遣及び復旧に向けた技術支援、対策本部車、排水ポンプ車、照明車などの災害対策機械の派遣、緊急放流に関する関係自治体への連絡体制の確保、水質モニタリングや監視、現地における交通混雑緩和のための広域迂回誘導など、様々なご支援をいただいております、御礼を申し上げます。
- 事故現場の下水道管渠の水量を減らすための緊急措置として、下水を塩素処理の上、中川流域の春日部市内の水路を通じ、下流の新方川、中川に放流していることにつきましては、早期に終了できるように検討するため、東京都をはじめ、下流域の自治体の皆様には、引き続きご理解・ご協力を賜りたい。
- 「中川・綾瀬川流域水害対策計画（案）」については、本協議会において流域のあらゆる関係者の議論のもと取りまとめられたこと、御礼申し上げます。
- 本計画は、従来から行政が取り組む河川や下水道の整備だけでなく、企業などが取り組む流域対策や、流域の特性を踏まえた土地利用の考え方なども示された、今後の中川・綾瀬川流域における流域治水の方向性を示す大変重要な計画と認識している。
- 特に、中川・綾瀬川流域の特性として、これまで無被害湛水を許容して治水対策に取り組んできたところであるが、昨今の激甚化・頻発化する水災害に対しては「無被害湛水を維持すること」、例えば「田んぼダム」のような取組を流域一丸となって進めていくことが、流域治水の加速化にあたって必要である。
- 本計画を流域全体の共通認識とし、あらゆる関係者が自分事として捉え、流域治水の取組が、より実効性のあるものとなるよう期待するとともに、本県としてもしっかりと取組を進めたい。

<草加市長>

- 「中川・綾瀬川流域水害対策計画（案）」の作成に際し、多数の関係者の皆様のご尽力に厚く御礼を申し上げます。
- 本市では、昭和50年代から4回の河川激特事業により、綾瀬川放水路や八潮排水機場の整備などが行われ、治水安全度が劇的に向上している。
- しかし、中川・綾瀬川流域における市街化の進展や気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化など、今後、流域における浸水リスクはさらに高まることが想定されている。
- 今後の本市の取組としては、内水氾濫を減らすハード対策として、令和5年6月の大雨で特に被害の大きかった地区のポンプ増強や整備を推進し、国・県で行う堤防整備や排水機場の増強など

と共に、内水被害軽減対策に流域一丸となって取り組むとともに、被害を軽減するソフト対策として、市民や企業が自ら水災害リスクを認識し、自分事としてとらえ、主体的に行動にできるよう、貯留施設などの整備目的・効果について市民への出前講座や防災教育を実施する。

- 本計画は、関係市区町が行う「貯める」・「排水する」対策と河川管理者が行う「排水を受け入れる」対策の役割分担により浸水被害の解消を目指す計画となっている。本計画の策定により、国・県・関係市区町がこれまで以上に「流域治水」の取組を推進することで、上下流一体で無被害湛水確保の確実性を高めるための検討に協力するとともに、「排水する等」に割り振られている湛水量について検討する。
- 本市として、流域全体に視野を広げ、流域全体の水災害対策の全体像を認識し、自らの行動を深化させ安心して暮らせる災害に強いまちづくり、そして、市民の皆様が安心して活躍できる「居場所」のあるまちづくりを実現していく。

<三郷市長>

- 今回まとめた流域治水の核となる「流域水害対策計画」を進めることにより、河川改修や排水機場などのハード整備の加速化や、雨水貯留施設の設置の義務化などの様々な対策が可能となり、治水安全度がさらに向上するものと考えます。
- 本市においても、国や県と連携して三郷放水路や栄調節池の効果的な活用や、大場川上流排水機場の増強の検討などを進め、流域対策をさらに促進していく。
- 今後は、新規放水路整備の早期着手や、貯留施設の設置など、これまで以上に国や流域自治体が一体となり、流域治水の推進によりさらなる治水対策の強化を進めてまいりたいため、安全・安心なまちづくりに対し、ご協力をお願い申し上げます。

<越谷市長>

- 本市では、この10年間で床上・床下浸水等の被害が3回発生しており、今後も大雨・短時間強雨の発生頻度・降水量の増加が予測されており、本流域においても大規模な水災害の発生リスクの高まりが懸念されているため、これまでの治水対策に加え、今回策定する計画の目標達成に向け、着実に推進していくことが大切である。
- 本流域は平坦な地形的特徴を有し、下流河川の多くは堤防構造となるため、河川への内水排水、排水の受け入れ先となる河川改修、流域外へ排水する放水路といった「排水する対策」と洪水流量を低減する調節池や河川へ流出する雨水を抑制する「貯める対策」の両面から推進していくことが重要である。
- 現在、本市では、「貯める対策」の一つとして、「田んぼダム」の取組の貯水効果や、農作物への影響などを検証するための実証実験を実施しているところ。
- 本取組には、農業者のご理解・ご協力が不可欠であることから、協力者に対するインセンティブや負担等を軽減する仕組みづくり・必要な支援について、流域として考えていくことが必要。
- 本市としても、河川・流域関係者と連携・協働し、流域治水に取り組んでいくため、国、都県の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

<行田市市長>

- 中川・綾瀬川の流域治水という考え方は、大変に必要で重要な取組だと考えている。
- 中川・綾瀬川の流域では最上流に位置する本市としても、しっかりと皆様のご助言・ご支援をいただきながら、皆様と一緒に取組を進めていきたい。
- 令和元年の台風第19号の教訓を踏まえて、行田市では、小学校における校庭貯留施設整備、「田

んぼダム」の取組を実施している。「田んぼダム」の取組については、250ha の計画のうち 24ha が整備済みであり、治水効果について検証しているところ。これを進める上で農家のご理解・ご協力を得ることが重要であるが、「取組の受益者」と「ご協力をいただく方」が異なるということが一番の課題である。今後、流域治水という考え方の中で、上流域で行う「田んぼダム」の取組を下流の皆さんと一体となって進めていけるよう、ご協力をお願いします。

- これからも、中川・綾瀬川流域の上流に位置する基礎自治体として、しっかりと水害対策に取り組んでまいりたい。国や都県の積極的な支援と情報提供をお願いしたい。

<農林水産省 関東農政局（代理）>

- 各自治体において積極的な「田んぼダム」の取組推進に関する議論をいただき感謝。
- 「田んぼダム」の取組は、農水省として推進しており、関東農政局としても都県・流域市区町と連携しながら、一体となって協力してまいりたい。
- 農水省において様々な支援策等を用意しているので、不明点は関東農政局へ問い合わせいただきたい。

<関東地方整備局 局長>

- 本日は計画（案）をまとめるプロセスの一つとして節目を迎えることができ、さらに、今後の計画を運用していくにあたる様々な想いを伝えていただき感謝。
- 本日、計画（案）がまとまり、法定手続きを経て策定された後は、「流域一体となって対策を進めていく」という次の段階に入る。中川・綾瀬川流域におけるこれまでの水害に対するご苦勞を流域の皆様方が感じ、流域治水の取組を一致団結して進めていかなければいけないと考えている。
- 近年の気候変動の影響を踏まえ、いつ・どこで施設の能力を超える雨が降るかわからない中、流域対策・河川整備を加速化する必要がある。関東地方整備局としては、ハード対策に関する要望を踏まえ、都県とも連携しながら対策を進めてまいりたい。
- 加えて、自分の命を守るためのソフト対策や、「田んぼダム」の取組を中心とした流域対策についても言及があった。昨年 8 月に開催した「流域治水シンポジウム 2024」でも、「自分事化」を確認させていただいたところだが、こうした各対策を関係者が一体となり、「by all」という流域治水の精神で取り組むためには、住民・企業の方々も一人一人が水災害リスクを認識し、自分事として捉え、主体的に行動するということが重要である。そうした精神を大事にしながら、皆様と一緒に進めていきたい。
- 今般、「国土強靱化 実施中期計画策定方針（案）」の策定手続き中であり、都県知事・全国の市区町村長へ（案）に対する意見照会が発出されている。計画の内容についてご確認いただき、実情に基づいたご意見等を提出いただきたい。
- 令和 7 年 1 月 28 日に発生した八潮市における陥没事故も踏まえ、流域水害対策協議会で議論している「水害への備え」、「老朽化への対応」、それぞれしっかり取り組んでいかなければならないということは皆様も同じ想いを抱いていると感じている。今後も地域の安心・安全を未来へ持続的に整えることを皆様方と一緒に進めてまいりたい。本協議会を通じ、流域が一体となり計画を推進するために、引き続きご協力をお願いします。

6. 閉会

以上

第3回 中川・綾瀬川流域水害対策協議会 出席者名簿

<構成員>

組織名	構成員				代理者		
	役職	氏名	出欠	出席方法	役職	氏名	出席方法
関東地方整備局	局長	岩崎 福久	本人	来場			
茨城県	知事	大井川 和彦	代理		土木部 河川課 課長	矢内 勝浩	WEB
埼玉県	知事	大野 元裕	代理		県土整備部 河川砂防課 副課長	大原 学武	WEB
東京都	知事	小池 百合子	代理		都市整備局 都市基盤部 施設計画担当課長	北浦 健	WEB
	下水道局長	佐々木 健	代理		下水道局 計画調整部計画課 内務室・治水対策推進担当課長	阿部 京	WEB
五霞町	町長	知久 清志	代理		都市建設課 主幹	大島 弘之	WEB
さいたま市	市長	清水 勇人	代理		建設局 土木部 河川課 課長	横田 聡	WEB
					建設局 下水道部 下水道計画課 課長	いたばし 板橋 和彦	WEB
熊谷市	市長	小林 哲也	代理		河川課 主査	篠澤 正樹	WEB
川口市	市長	奥ノ木 信夫	代理		建設部 河川課 建設部理事兼河川課長	酒井 昇	WEB
	上下水道 事業管理者	小池 紀晃	代理		上下水道局 事業部 部長	田中 孝行	WEB
行田市	市長	行田 邦子	本人	WEB			
加須市	市長	角田 守良	代理		都市整備部 部長	増田 英二	WEB
春日部市	市長	岩谷 一弘	本人	来場			
羽生市	市長	河田 晃明	代理		まちづくり部 建設課 課長	横田 徳司	WEB
鴻巣市	市長	並木 正年	代理		都市建設部 道路課 都市建設部参事兼道路課長	小林 勝	WEB
上尾市	市長	畠山 稔	代理		都市整備部 部長	須田 均	来場
草加市	市長	山川 百合子	本人	WEB			
越谷市	市長	福田 晃	本人	WEB			
桶川市	市長	小野 克典	代理		副市長	樋口 悟史	来場
久喜市	市長	梅田 修一	代理		建設部 治水河川課 課長	櫻浦 有光	WEB
北本市	市長	三宮 幸雄	代理		都市整備部 建設課 課長	石井 学	WEB
八潮市	市長	大山 忍	代理		建設部 部長	金子 和広	WEB
三郷市	市長	木津 雅晟	本人	WEB			
蓮田市	市長	山口 京子	代理		都市整備部 次長兼道路課長	門井 政治	WEB
幸手市	市長	木村 純夫	代理		建設経済部 道路河川課長	酒井 猛	WEB
吉川市	市長	中原 恵人	代理		都市建設部 部長	荒川 泰弘	WEB
白岡市	市長	藤井 栄一郎	代理		安心安全課 課長	船木 計	WEB
伊奈町	町長	大島 清	代理		町長部局 都市建設統括監	中本 雅博	WEB
宮代町	町長	新井 康之	代理		まちづくり建設課 課長	高橋 勝己	WEB
杉戸町	町長	窪田 裕之	代理		都市施設整備課 主査	皆川 明彦	WEB
松伏町	町長	鈴木 勝	代理		まちづくり整備課 課長	岡田 純明	WEB
足立区	区長	近藤 やよい	代理		都市建設部 都市建設課 課長	室橋 延昭	WEB
葛飾区	区長	青木 克徳	代理		都市整備部 調整課 課長	生井沢 良範	WEB
江戸川区	区長	斉藤 猛	代理		土木部 計画調整課 調整係 係長	難波 雅史	WEB
財務省関東財務局	管財第一部長	中村 武浩	本人	来場			
農林水産省関東農政局	農村振興部長	香山 泰久	代理		農村振興部 洪水調節機能強化対策官	佐藤 秀彦	来場
環境省関東地方環境事務所	事務所長	神谷 洋一	本人	WEB			
気象庁東京管区気象台	気象防災部長	平 祐太郎	本人	WEB			
独立行政法人水資源機構 利根導水総合管理所	管理所長	秋場 宣吉	代理		副所長	齊藤 靖	WEB

<事務局>

組織名	役職	氏名
関東地方整備局	事務所長	小池 聖彦
江戸川河川事務所	副所長	田所 百年裕